

## 第30回廃炉・汚染水対策現地調整会議の概要

### 1. 日程

日時:平成28年2月22日(月) 10:00-12:15

場所:郡山ビューホテルアネックス 4階「花勝見」

### 2. メンバー

政府: (議長):高木原子力災害現地対策本部長(経済産業副大臣)

後藤原子力災害現地対策副本部長

復興庁:白井次長(福島復興局)

文部科学省:村山放射性廃棄物企画室長

農林水産省東北農政局:早川主任農政推進官

農林水産省水産庁:竹葉研究指導課長

国土交通省:小俣河川環境課長

廃炉・汚染水対策チーム:田中事務局長補佐、尾澤事務局長補佐、  
湯本事務局総括、江口対策官、豊口企画官

廃炉・汚染水対策現地事務所:生越所長、木野参事官、谷田調整官、  
小野対策官

原子力損害賠償・廃炉等支援機構:松永現地事務所長

東京電力:石崎福島復興本社代表、増田プレジデント、有馬バイスプレジデント、

磯貝福島第一原子力発電所プロジェクト統括管理センター所長

福島県(オブザーバー):玉根政策監

規制当局 原子力規制庁:山田審議官、持丸総括調整官

厚生労働省 福島労働局:久富労働基準部長、安井労働基準監督官

### 3. 結果概要

#### (1) 議長冒頭挨拶

○本日も、御多忙の中、お集まりいただき感謝申し上げます。

○来月11日で、東日本大震災から5年となります。そのため、今回の現地調整会議では、今年度の成果を中心に、総括的な報告をいただくとともに、これまで5年間の取り組みを振り返りながら、その経験を今後活かしていきたいと思っております。

○汚染水対策については、先日開催された原子力規制委員会の検討会において、陸側遮水壁の凍結を段階的に開始する方針が確認されました。既に、凍結に必要な全ての工事が完

了しており、実施計画の認可後、速やかに凍結が開始され、効果が早期に発揮されることが期待されます。

○廃炉についても、使用済み燃料の取り出しに向けた1号機原子炉建屋のカバー解体や、燃料デブリの取り出しに向けた各号機の内部調査などが進められてきました。

○このように、廃炉・汚染水対策は、この5年間で大きく前進しましたが、建屋内滞留水の処理や使用済み燃料・燃料デブリの取り出しなど、今後とも取り組むべき課題も多く残されているため、年度末に向けて、また、6年目以降に向けて、1Fにおける廃炉・汚染水対策を、引き続き着実に進めてまいります。

○本日も、発生事象に対する取り組みや、K排水路の付け替えなど、各対策の進捗等について報告を受けたいと思いますので、活発な御意見、そして議論をお願いいたします。

## (2) 会議概要 (主な指摘事項)

### **議題4**

<資料1-4>

- ▶ 当直員と当直長のコミュニケーションを早急かつ確実に行うしくみを構築すること。
- ▶ 自治体等への連絡を遅滞なく行って欲しい。

### **議題5**

<資料1-5>

- ▶ 構内の全ての車両が整備を受けるように徹底して欲しい。

### **議題6, 7**

<資料2>

- ▶ 雑固体焼却設備について、水漏れの原因と対策の関係が分かりづらいので、原因についてガスケットの材料不良なのか施工不良なのかなど、しっかりと記載して欲しい。
- ▶ 雑固体の排ガスなど周辺への影響は、地元の関心が高い。安全対策をしっかりとるようお願いしたい。
- ▶ 陸側遮水壁について、凍結作業の管理をしっかりと行い、建屋流入量の成果を確実に出して欲しい。
- ▶ タンクの容量が足りなくならないよう、確実に容量を確保して欲しい。
- ▶ リスク管理の観点からは、フランジ型タンクにはALPS処理水を入れた方が良い。フランジ型タンクに、ストロンチウム処理水をどのくらいの期間保管する予定なのか検討して欲しい。

- ▶ 循環ループ縮小について、既設の設備も長期間使用するのので、耐震性など信頼性の向上を図ること。
- ▶ 水バランスについて、5月15日までと5月16日からで、陸側遮水壁海側の閉合の影響と思われるが、350トン→150トンと試算している。この分析をしっかりと行い、汚染水対策の進捗をPRできるようにして欲しい。また、雨季の影響を考えて、引き続き対策を講じて欲しい。
- ▶ 排水路については、水質が改善してきているが、清掃なども含め、引き続き管理を徹底して欲しい。

### (3) 次回以降の日程

○次回は3月開催。詳細の日程は決定次第、事務方より連絡。

(以上)